

3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。

4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの
- 5) 図・表・写真が英文でないもの

9. 講演原稿取り下げ

プログラム決定後の講演原稿の取り下げはお断りいたします

10. 申込締切日 昭和 59 年 7 月 5 日 (木) 17 時着信まで

申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

11. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4

経団連会館 3 階 (社) 日本鉄鋼協会編集課
(電) 03-279-6021 (代)

~~~~~

原稿用紙、合本ファイル有償頒布について

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒 350 円), 2, 3 冊 (〒 700 円)
2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒 350 円), 2, 3 冊 (〒 700 円)
3. 講演前刷用原稿用紙  
鉄と鋼用 (1 枚 10 円),  
Transactions ISIJ 用 (1 枚 10 円)

郵送頒布の場合は下記のとおり枚数を限定させていただきます。なお 50 枚以上の場合は係までお問合せ下さい。

|                |      |      |      |      |       |           |
|----------------|------|------|------|------|-------|-----------|
|                | 10枚  | 20枚  | 30枚  | 40枚  | 50枚   | 備考        |
| 鉄と鋼用           | 340円 | 550円 | 650円 | 750円 | 1200円 | } 料金は送料込み |
| Transactions 用 | 340円 | 440円 | 650円 | 750円 | 850円  |           |

4. 「鉄と鋼」用合本ファイル  
1 冊 250 円 (送料別)
5. 申込方法 ①原稿用紙の種類, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。
6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4  
経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会庶務課

講演分類

| 製 鉄   |               |          |         | 製 鋼  |        |         |         |     |
|-------|---------------|----------|---------|------|--------|---------|---------|-----|
| 1     | 2             | 3        | 4       | 5    | 6      | 7       | 8       |     |
| 原料・燃料 | 製錬            | 耐火物・スラグ  | その他     | 精錬   | 鑄造・凝固  | 耐火物・スラグ | その他     |     |
| 分析    | 加 工 ・ シ ス テ ム |          |         |      |        |         |         |     |
| 9     | 10            | 11       | 12      | 13   | 14     | 15      | 16      | 17  |
| 分析    | 塑性加工          | 表面処理・防食  | 鑄造・粉末冶金 | 溶接   | 熱処理設備  | 計測・制御   | 環境管理・情報 | その他 |
| 材 料   |               |          |         |      |        |         |         |     |
| 18    | 19            | 20       | 21      | 22   | 23     | 24      |         |     |
| 基礎物性  | 熱処理・組織        | 強度・靱性・破壊 | 塑性・加工性  | 高温特性 | 腐食・耐食性 | その他     |         |     |

~~~~~

昭和60年春季(第109回)講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和60年春季(第109回)講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉における装入物分布制御 座長 渋谷 悌二

高炉の大型化に伴つて装入物の分布制御は重要な課題となり、設備面でムーバブル・アーマーあるいは新形式の装入装置の採用がはかられて来た。装入物分布は装入物の落下衝撃力、コークス層の崩れなど多くの要因の影響を受け、これらは模型実験によつて解明されその知見が実高炉に適用されている。今回装入物分布に関する実験成果と実高炉への適用を中心とし、更に小粒装入物の装入方法などきめ細かな分布制御について討論を行いたい。

2) 高純度鋼製造における介在物の挙動 座長 坂尾 弘, 座長 成田 貴一

高純度鋼製造の立場より、溶鋼の精錬、凝固過程における介在物の挙動、すなわち介在物生成元素の異相間分配、介在物の生成・成長、質的(形態)変化、凝集・分離、偏析などの基本的現象、純度評価技術、さらに生産技術上における諸問題について討論し、高純度鋼製造技術の確立に関する科学的指針を明確にしたい。

3) 管・型材の冷間ロール成形技術 座長 神馬 敬

騒音の少ない生産速度の高い回転塑性加工としての特質を評価されて、最近の冷間ロール成形技術は、軽量形鋼、電縫管、自動車用バンパ、モールなど、真直な長尺品ばかりでなく、湾曲した長尺品の量産に広く使用されるようになった。本討論会では、ロールのCAD/CAM、成形機のFMS化、異種加工との複合化、薄肉及び厚肉材の溶接技術、成形品の残留応力制御など、冷間ロール成形技術の発展のために、各方面からの発表と活発な討論を期待する。

4) 薄板・表面処理鋼板の表面解析とその応用 座長 新居 和嘉, 副座長 中岡 一秀

近年の表面解析手法の発達により、鋼板の表面もかなり多くのことが分かるようになってきたが、まだ表面性状と材料性能とは十分に相関づけられていない。そこで今回は薄板、ステンレス鋼及び各種表面処理鋼板について、種々の表面解析手法による表面キャラクタリゼーション、それから得られた情報による素材や製造プロセスの解析、さらに鋼板の表面処理性や耐食性との相関などについて、現在の技術レベルとその問題点の確認、今後の研究の方向についての討論を行う。各方面からの発表と活発な討論を期待する。

5) オンライン分析技術の最近の進歩 座長 大坪 孝至, 副座長 角山 浩三

近年、精錬技術の著しい進歩に伴い溶鋼(溶鉄)の成分調整が多段化している。また、連続鋳造技術が普及し、さらに鋳片の直送圧延も実用化されている。これらは、すべて溶鋼(あるいは鋳片)の化学成分が迅速にしかも正確に分析でき、それら分析値が直ちにフィードバックあるいはフィードフォワードされてはじめて、その真価を発揮する。さらにまた、最近の自動車用防錆鋼板をはじめとする各種表面処理鋼板製造にあつては、めつき層の化学組成や目付量を狭い目標範囲内に管理することが必要で、このためには、めつき層およびめつき浴の迅速かつ正確な分析が必須である。このように、プロセスの進歩と共に、分析にも迅速性(リアルタイム化)が要請される。各種工程でのオンライン分析技術の最近の進歩につき、各方面からの発表と活発な討論をお願いする。

2. 申込締切日 昭和59年8月10日(金)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に400字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和59年11月2日(金)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め1ページ6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。(原稿用紙1枚10円)

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第71年第1号(昭和60年1月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第71年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和60年2月末日

前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021(代)

第100・101回西山記念技術講座

——攪拌を利用した最近の製鋼技術の動向——

主催 日本鉄鋼協会

西山記念技術講座は昭和43年8月に第1回を開催して以来今回第100回を迎えることになりました。それを記念して下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

- I 期 日 第100回 昭和59年11月13日(火), 14日(水)**
 神戸 西山記念会館大ホール (神戸市中央区脇浜町 3-4-16 TEL 078-221-1746)
第101回 昭和59年12月11日(火), 12日(水)
 東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講演者

[第1日]

- | | | | |
|-------------|-------------------------------------|---------------------|-------|
| 9:40~10:40 | 製鋼技術の変遷と今後の動向 | 川崎製鉄(株)取締役千葉製鉄所 | 川名 昌志 |
| 10:50~12:00 | 攪拌下の精錬反応 | 東北大学選鉱製錬研究所 | 徳田 昌則 |
| 12:50~14:00 | 攪拌を利用した精錬プロセスにおける流体運動と物質移動 | 名古屋大学工学部 | 浅井 滋生 |
| | —溶銑予備処理技術の動向— | | |
| 14:10~15:30 | 1) 脱珪技術と石灰系フラックスによる脱りん, 脱硫技術 | 新日本製鉄(株)広畑技術研究部 | 梅沢 一誠 |
| 15:40~17:00 | 2) ソーダ系フラックスによる溶銑予備処理技術と転炉精錬プロセスの発展 | 住友金属工業(株)鹿島製鉄所技術開発部 | 丸川 雄浄 |

[第2日]

- | | | | |
|-------------|-------------------|------------------|-------|
| | —転炉技術の動向— | | |
| 9:30~10:50 | 1) 底吹き及び強攪拌上下吹き技術 | 川崎製鉄(株)水島製鉄所製鋼部 | 今井 卓雄 |
| 11:00~12:20 | 2) 弱攪拌上下吹き技術 | 日本鋼管(株)京浜製鉄所製鋼部 | 半明 正之 |
| | —二次精錬技術— | | |
| 13:20~14:40 | 1) 転炉鋼 | (株)神戸製鋼所神戸製鉄所製鋼部 | 川崎 正蔵 |
| 14:50~16:10 | 2) 電炉鋼 | 大同特殊鋼(株)中央研究所 | 湯浅 悟郎 |

III 講演内容

1) 製鋼技術の変遷と今後の動向 川名 昌志

日本鉄鋼業における製鋼技術の進歩について言及する。製鋼技術者が取り組んで来た多くの課題のうち、平・転炉・および取鍋・精錬技術の変遷と進歩、これら技術に占めて来た溶鋼攪拌の役割を述べる。現在に至る上記技術の変遷と筆者の体験を踏まえて、設備投資、資源エネルギー問題、技術開発力の強化などを取り上げ、今後の製鋼技術について提言する。

2) 攪拌下の精錬反応 徳田 昌則

精錬反応の解析に際しての基礎的事項について冶金物理化学的立場からの整理を試みる。まず、各種冶金プロセスおよび接触操作に応じた攪拌の意義を考える。つづいて、物質移動係数の内容を界面反応モデル、平衡論、速度論の立場から考察し、とくに分配比、界面酸素分圧、諸物性値の役割を詳しく検討する。

3) 攪拌を利用した精錬プロセスにおける流体運動と物質移動 浅井 滋生

精錬プロセスにおける物質移動速度は融体の流動および混合と密接に結びついており、混合の評価についてはかなり明らかになってきている。一方、物質移動速度に及ぼす攪拌の効果については、これまで多くの研究がなされてきたものの、理論的に十分解明されていないのが現状である。ここでは、流動状態の分類、回分式装置の循環流量、気体-液体、液体-液体、固体-液体間の物質移動特性、スラグ-メタル接触操作、について精錬反応と関連づけて述べる。

4) 溶銑予備処理技術の動向

4-1 脱珪技術と石灰系フラックスによる脱りん, 脱硫技術 梅沢 一誠

ここ数年の間に実用化の域に達した溶銑の脱珪および脱りん, 脱硫技術をその精錬工程における位置づけを明確にし概説する。ついで処理中の諸現象に言及するとともに、これらの技術を支える新しい精錬理論の展開、各種周辺技術の発展について述べる。予備処理技術は転炉精錬法を補完する技術であり、今後よりシンプルなプロセスに発展させねばならない。そのために必要な技術上の課題、問題点を明らかにしたい。

4-2 ソーダ系フラックスによる溶銑予備処理技術と転炉精錬プロセスの発展 丸川 雄浄

ソーダ系フラックスによる溶銑脱りん脱硫同時処理技術において、その冶金的反応特性、耐火物のあり方、およびスラグ処理技術につき述べる。さらに、溶銑予備処理プロセスを組入れた新精錬プロセスにおいて、転炉吹錬機能

の拡大および発展方向と今後の課題について述べる。

また新精錬プロセスを用いた、実操業規模における低りん鋼量産プロセスについての紹介を行う。

5) 転炉予備処理技術の動向

5-1 底吹き及び強攪拌上下吹き技術 今井 卓雄

炉底からの酸素吹きと生石灰インジェクション機能を有する底吹きおよび上底吹き転炉を強攪拌型転炉と定義し、その冶金特性について概説する。さらに強攪拌型転炉の吹錬制御、炉底寿命延長、溶銑予備処理銑の吹錬などの操業技術を述べるとともに、強攪拌力を利用した Mn, Cr 鉱石の炉内還元、炉内熱補償技術についても述べ、今後の強攪拌転炉の動向を展望する。

5-2 弱攪拌上下吹き技術 半明 正之

上吹き転炉は、製鋼法の主流をなしているが、その特徴である低炭素域での鋼浴の攪拌不足から生じる有効成分の酸化ロスや、成分、温度の不均一が問題となっている。近年、底吹き転炉の攪拌力と冶金特性との関係が明らかになり、上吹き転炉の冶金特性の改善が、比較的少量の底吹きガスで達せられ、数多くのプロセスが実働化されてきた。本報では、少量のガスのみを底吹きする上下吹き転炉の吹錬技術と、冶金特性、及び、操業面での改善点について述べる。

6) 二次精錬技術

6-1 転炉鋼 川崎 正蔵

最近の鋼材に対する厳しい品質要求にこたえ、二次精錬技術は、不純物元素の低減をはじめとする各種機能の極限追求において、目覚ましい発展を遂げている。一方、品質要求レベルに応じて、合理的に対応していくためには、溶銑予備処理・転炉・二次精錬・連铸の一連の工程の中で、各種機能の役割分担の最適化をはかることもきわめて重要である。ここでは、転炉鋼における二次精錬技術の現状と今後の課題についてまとめる。

6-2 電炉鋼 湯浅 悟郎

近年電炉鋼、特に電炉特殊鋼はほとんど何らかの炉外精錬法による清浄化を経て溶製されるようになっており、現状では電炉鋼にいかなる炉外精錬法がどれだけ適用されているかを紹介し、その中で攪拌の機能が精錬にどのような意義を持つかを解説する。また攪拌法の相違が精錬の結果に及ぼす影響について、種々の実績値を紹介し、その原因の考察を行う。次いでこれら精錬法の到達する精錬水準やさまざまな応用効果の実例を提供する。さらにプロセスの発展、改善、組み合わせ等に言及した上、今後の電炉製鋼技術の進歩を展望する。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

第 7 回海洋工学シンポジウム開催のお知らせ

主催：日本造船学会

協賛：日本建築学会、土木学会、日本鉄鋼協会

日時：昭和 59 年 6 月 13 日(水)、14 日(木)

9 時 00 分～17 時 00 分

会場：農林年金会館新館 1 階鳳凰の間

東京都港区虎の門 4-1-1 Tel. 03-432-7261

セッション：係留(5 件)、流体力学(7 件)、半潜水式海洋構造物の応答強度解析(3 件)、弾性応答(4 件)、パイプ構造(4 件)、氷海(5 件)、強度(4 件)

テキスト：B5 版 300 頁の予定

参加費：主催・協賛学協会会員 13,000 円 同学生会員 7,000 円 一般 15,000 円 (いずれもテキスト代金を含む)

申込予約締切：昭和 59 年 5 月 14 日(月)

問合せ、申込先：日本造船学会 海洋工学シンポジウム係
〒105 東京都港区虎の門 1-15-16
船舶振興ビル内 電話 03-502-2048～9

第 1 回核融合炉材料国際会議の開催について

(First International Conference on Fusion Reactor Materials, ICFRM-1)

主催：日本原子力学会、本会ほか

日時：昭和 59 年 12 月 3 日(月)～6 日(木)

(ファーストサーキュラー以降日程が変更になりましたので御注意下さい)

場所：東京プリンスホテル (東京都港区芝公園 3-3-1)

参加費：一般 50,000 円、学生 25,000 円 (プロシーディング含まず)

アブストラクト締切：6 月 30 日(土)

参加登録締切：9 月 30 日(日)

フルペーパーのコピー締切：11 月 1 日(木)

セカンドサーキュラー送付依頼先：

〒162 東京都新宿区神楽坂 1-3

東京理科大学工学部 橋口隆吉

電話 03-260-4271 内 345

石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 59 年 6 月 30 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもって、「石原・浅田研究助成金制度」を設け昭和 47 年度より助成金を交付しております。ついては、今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者は協会所定の様式をもって応募して下さい。

記

1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する本会会員、またはそのグループとし、研究者の年齢は昭和 59 年 4 月 1 日現在満 36 才未満（昭和 23 年 4 月 2 日以降の生れ）とする。（大学院博士課程学生を含む。）

2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年以内とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

3. 交付金額

1 件 40 万円、6 件以内

4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の項目は次の通りである。

(1) 研究課題

(2) 研究者氏名、所属、他

(3) 研究の目的

(4) 研究の実施計画、方法

(5) 研究の特色、独創的な点

(6) 従来の研究経過、成果または準備状況

(7) 同種研究の国内外における研究状況

(8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 社団法人日本鉄鋼協会 総務部 庶務課宛

4) 申請締切 昭和 59 年 6 月 30 日

5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行い、理事会で決定する。

6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に報告し、同時に研究者またはグループの代表者に通知する。

7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 2,000 字程度の報告書を作成し研究期間終了後 1 カ月以内（最終期限は昭和 62 年 2 月末日）に提出しなければならない。この報告書は会誌「鉄と鋼」に掲載する。また研究成果について発表する際には本助成金を受けた旨を明記し、その一部（コピーでも可）を提出するものとする。

なお、助成金についての経理報告は必要がない。

9. 石原・浅田研究助成金について

昭和 33 年以来故石原米太郎殿（当時、特殊製鋼株式会社社長、同社は昭和 51 年 9 月に大同製鋼株式会社および日本特殊製鋼株式会社の 3 社合併により、大同特殊製鋼株式会社となる）の寄贈により石原米太郎研究資金が設定されその果実をもって研究助成金の交付を行っていましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念資金の毎年の果実の過半も研究助成金にあてることになりました。そこでこれらをつつにまとめて「石原・浅田研究助成金」と改称して昭和 47 年度から交付しているものです。

第3回日向方斉学術振興交付金の希望者募集案内

申請締切日・昭和59年9月7日

本会では住友金属工業株式会社から取締役会長日向方斉氏の功績記念のため寄贈された金五千万円の資金をもつて鉄鋼関係学術振興のため「日向方斉学術振興交付金制度」を設置しております。つきましては下記により受給希望者を募集致しますので、希望者は所定の申請書様式（本協会にご請求下さい。）により応募して下さい。

記

1. 本制度の目的

大学、研究機関等にいる鉄鋼関係の若手研究者が海外で開催される国際研究集会（これに準ずるものを含む）に優れた研究成果を発表するために必要な渡航費等を支弁することを目的とする。

2. 応募資格

1) 国公立の大学、工業高等専門学校等または国公立研究機関（特殊法人を含む）に在職中または在学中の本会会員（正会員、学生会員）で、2) 国際研究集会の開催時の年齢が満40歳未満でありかつ、3) 本会会誌またはその他の学術的刊行物に研究成果の発表をしたことのある者。

3. 対象国際研究集会

昭和60年1月から昭和61年3月までに開催される国際研究集会で、技術分野は本会が春秋に行っている講演大会の範囲の集会。

4. 支弁する交付金の内容

1) 航空運賃（必要最少限のエコノミー料金）、2) 滞在費（集会開催日の前日から終了日の宿泊まで）、3) 参加登録費

5. 申請方法

本会所定の申請書様式により本人が申請する。

“記入内容の概略”

1. 住所、氏名、生年月日、所属職名、正会員・学生会員の別
2. 過去の研究業績（本会会誌またはその他の学術的刊行物への投稿論文）
3. 出席する国際研究集会の名称、主催者、会期、開催地
4. 発表する論文の主な内容
5. 参加資格（座長、招待講演者、一般講演者等の別）
6. 必要経費の概算額
7. 他機関への旅費等の申請の有無

6. 交付件数

60年分については10件以内とする。

7. 受給者の義務

1. 出席報告書の提出（原則として会誌「鉄と鋼」に掲載）
2. 発表論文の提出（著作権上可能な限り会誌「Trans. ISIJ」に掲載）

8. 申請書様式請求先及び申請書提出先

〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号 経団連会館3階
社団法人 日本鉄鋼協会 総務部 庶務課 (Tel. 03-279-6021)

9. 申請書締切日

昭和59年9月7日（金）

10. 交付決定通知

交付決定者には、昭和59年10月15日までに通知し、本会会誌に氏名、発表論文題目、発表する国際研究集会名を会告する。

九州支部第 54 回学術講演会及び支部総会ならびに

第 27 回湯川正夫記念講演会開催のご案内

日時：昭和 59 年 6 月 8 日(金) 9:00~17:15

場所：九州工業大学 (北九州市戸畑区仙水町 1-1)

——第 1 会場——

- (1) CaO-Al₂O₃-CaF₂ 系の液相線温度と F の分析値
九大・院 大山正嗣外
- (2) CaF₂-CaO-Al₂O₃系スラグによる溶銑の脱硫速度
九大・院 古野好克外
- (3) ソーダ灰の分解過程と塩基度の変化
九大・院 中島邦彦外
- (4) 溶融 Bi₂O₃-SiO₂-Cr₂O₃, Bi₂O₃-B₂O₃-Cr₂O₃ 系の
導電率および赤外線吸収スペクトル
熊大・院 前田浩俊外
- (5) MgO-SiO₂-FeO 系固溶体中の FeO の活量測定
熊大・院 大石昭二外
- (6) 高炉スラグの有効利用に関する研究 (ウォールタ
イル素地への応用)
熊大・院 伊東孝史外
- (7) 火山灰の有効利用に関する研究 (ウォールタイル
素地およびコンクリートブロックへの応用)
熊大・工 砂山寛之外
- (8) 酸化鉄の還元及ぼすアルカリの影響
九大・工 中川 大外
- (9) 二次元モデルによる高炉下部充填・降下挙動の研究
新日鉄・第三技研 一田守政外
- (10) 焼結における粉コークス燃焼効率 (η_{CO}) の検討
新日鉄・大分 高松信彦外

——第 2 会場——

- (1) Al-Zn 合金の相分離過程
鹿児島高専 池田英幸外
- (2) Fe-B-Si 系アモルファス合金の結晶化過程
九工大 高原良博外
- (3) Ni-Al-Mo 合金中に形成される準安定析出相
九大・院 大神正浩外
- (4) Cu-Ga 合金の析出と P-L 効果
九大・工 小野寺龍太外
- (5) Cu-Sn 系 α 相における異常なカーケンドール効
果について
九工大 下崎敏唯外
- (6) 純金属の遷移クリープ機構
九大・院・学生 中島英治外
- (7) Si₃N₄-SiC 複合材料の機械的性質
九大・院・学生 幾原雄一外
- (8) 複合材料の熱的組織安定性
九大・院 西嶋裕造外
- (9) アーク溶解 Mo-Ti 合金の粒界破壊
九工大・院 有井初志外
- (10) 高 Mn 鋼の変態挙動と機械的性質
九大・院 藤野隆也外

12:30~13:00 支部総会 13:00~14:20 湯川正夫記念講演会

演題 高合金鑄鉄における炭化物の形態制御

講師 佐世保工専校長 松田公扶

- (11) ゲルクロマトグラフィーによる PMS 計算誘導
体解析
九工大・大楠 弘外
- (12) Ni の析出挙動に及ぼす金属不純物の影響
九大・院 中野博昭外
- (13) 溶融めつきにおける濡れ性向上に関する研究
新日鉄・第二技研 斉藤勝土外
- (14) 水素吸着による鉄蒸着膜の電気抵抗変化
九大・工 荒牧正俊外
- (15) 炭素鋼のクロマイジング処理とそれによぼす各
種拡散剤の影響
熊大・院 西山亮一外
- (16) 鉄粉の爆発圧縮成形
熊大・院 友納憲昭外
- (17) マルエージング鋼で強化した爆接 Al 系および
Ti 系複合材料の研究
熊大・院 広崎達也外
- (18) 溶接低温割れに及ぼす介在物の影響
九工大 秋山哲也
- (19) 溶接熱影響部による T, 及び N の存在形態
九工大 諫山知明外
- (11) Al 添加 SUS 430 薄板の熱延板焼鈍省略プロセス
における捲取温度の影響
新日鉄・第二技研 原勢二郎外
- (12) 炭素鋼オーステナイトの線材圧延における再結晶
新日鉄・第三技研 矢田 浩外
- (13) 高速連続熱間加工による炭素鋼オーステナイト組
織の変化
新日鉄・第三技研 瀬沼武秀外
- (14) 低炭素鋼板の再結晶集合組織形成に及ぼす Mn 量
および冷延前処理条件の影響
九大・院 丸田健司外
- (15) Fe-Cr-Nb-C 合金の凝固
九大・工 沢本 章外
- (16) 電子線チャンネルリングパターン of の迅速解析法と方
位の表示方法の開発
新日鉄・第三技研 清水 亮外
- (17) 転位ループを含む Al 単結晶の粗大すべり帯内の
転位組織
九大・院 福地幹治外
- (18) 中性子照射銅結晶におけるすべり帯形成の特徴
九大・院 植村俊彦外
- (19) 変形した Al-Li 合金単結晶中の転位配列
九大・院 松井昭彦外

クリープ国際会議

主催 (社)日本機械学会 協賛 日本鉄鋼協会, ほか
 期日 1986年4月14日(月)~17日(木)
 場所 東京
 論文募集分野

- I. Evaluations of Structural Materials and Welded Joints in the Creep Regime
- II. Crack Behavior in the Creep Regime
- III. Life Prediction in the Creep Regime
- IV. Design and Inelastic Analysis in the Creep Regime

公用語 英語

アブストラクト 1) 語数: 700~1,000語(英文)
 2) 締切日: 1985年1月10日(木)
 [英文の circular 1月1日と記載しますが, 日本国内の方は1月10日締切です.]

論文締切日 1985年7月1日

(印刷用原稿提出締切日: 1985年12月5日)

アブストラクトの送付ならびに詳細についてのお問い合わせは, 直接下記宛にお願いします。

〒151 東京都渋谷区代々木 2-4-9
 (三信北星ビル5階)
 日本機械学会 総務課
 電話 (03) 379-6781

「化学機械用材料と溶接」—発達と展望—
講習会ご案内

主催: 日本溶接協会 後援: 日本鉄鋼協会ほか
 開催日: 昭和59年6月19日(火) 9:30~16:30
 会場: 自動車会館 東京都千代田区九段南 4-8-13
 Tel. 03-264-4719

定員: 100名

参加費: 1名当り 18,000円(テキスト代, 昼食含む)

申込締切: 昭和59年6月11日(月)

問合, 申込先: 日本溶接協会 化学機械溶接研究委員会
 〒100 東京都千代田区神田佐久間町 1-11
 産報佐久間ビル Tel. 03-257-1521

第31回腐食防食討論会講演募集

主催 腐食防食協会 協賛 日本鉄鋼協会外
 日時 昭和59年10月14日(日)~16日(火)
 場所 横浜国立大学工学部講義棟
 〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台 156
 電話 045-335-1451

講演申込締切 7月14日(土)

主題 (1) 腐食事例と対策および現場の問題点
 (2) 腐食防食の基礎研究と実際への応用

参加費 主催協賛団体会員 6000円 会員外 7000円

問合申込先 腐食防食協会

東京都千代田区神田神保町 2-23
 電話 03-261-3275

プラズマ分光分析研究会「'84 筑波セミナー」
のお知らせ

主催: プラズマ分光分析研究会
 協賛: 日本鉄鋼協会外
 期日: 昭和59年7月18日(水)~20日(金) 2泊3日
 (7月18日14:00までに現地集合)
 場所: 筑波学園都市研修センター
 電話 0298-51-5152(代)
 参加費, 宿泊費: 主催, 協賛会員 参加費 25,000円
 非会員 30,000円
 宿泊費 15,000円
 定員: 50名(先着順)
 参加申込締切日: 昭和59年6月23日(土)
 申込および問合せ先:
 国立公害研究所計測技術部 森田昌敏
 〒305 茨城県筑波郡谷田部町小野川 16-2
 電話 0298-51-6111(内) 331

国際高強度低合金鋼会議
HSLA STEELS '85

主催 The Chinese Society of Metals
 China Science and Technology Exchange Centre
 協賛 日本鉄鋼協会ほか
 期日 1985年11月4日~7日
 場所 Beijing (Peking), China
 アブストラクト 1) 語数: 300~500語(英文)
 2) 締切日: 1984年10月31日
 論文 1) 語数: 約5000語以内(英文)
 2) 締切日: 1985年4月30日
 Call for Papersの詳細をご希望の方は本会国際課(03-279-6021)までご連絡下さい。

第17回疲労シンポジウム講演募集

主催: 日本材料学会 協賛: 日本鉄鋼協会外
 期日: 昭和59年11月13日(火), 14日(水)
 会場: 立命館大学 末川記念会館
 京都市北区等持院北町 56 Tel. 075-463-0604
 講演分野: 1. 疲労き裂の発生と進展, 2. 実働条件下の疲労, 3. 疲労に及ぼす環境効果, 4. 時効の影響および疲労機構, 5. 新材料の疲労特性, 6. 実物部材の疲労と耐疲労設計
 講演申込締切: 7月7日(土)
 前刷原稿締切: 9月8日(土)
 問合, 申込先: 日本材料学会疲労シンポジウム係
 〒606 京都市左京区吉田泉殿町 1番地
 101 Tel. 075-761-5321